

元気おおとよ新聞

新年の御挨拶

新年 あけまして おめでとうございます

皆様にはご家族で素晴らしい初春を迎えられたことでしょう。心からお祝い申し上げます。本年も「NPO法人元気おおとよ」へのご支援ご指導をどうかよろしくお願いいたします。

自然や社会現象にいろいろな不安や心配な状況が見られる中、農漁村や田舎に目が向けられつつある動きが起きているのも事実です。大小問わず各自治体や団体、組織で移住促進や地方活性化に向けての取り組みが見られます。事業の内容や成果が賑やかに紹介されます。

さて、我が大豊町はどの方向へベクトルを向けるのでしょうか。向けたらいいのでしょうか。

私ども「NPO法人元気おおとよ」もしっかりです。「何とか大豊が今より少しでも元気になったらいいねえ」との気持ちと意志を持って集まった法人です。今年は今一度、足元をみつめ将来を見据え、より確かに歩みを進めたいと思っています。

どうかよろしくお願いいたします。

理事長 下村守正



昨年は、念願の町内での「手打ち蕎麦教室」を、川口公民館、農工センター、大田口公民館の3か所で行うことができました。今年も、「手打ち蕎麦教室はどこでも出張いたします」。申し込みをよろしくお願い致します。（下村）

11月6日(日) ジビエフェスタにガレット出店してきました！

今年で5回目となるジビエフェスタ、一言で言うとう強風との戦いでした。（汗）

吹き荒れる風にテントがきしみ、隙間風のおかげで鉄板の火は安定しません。長年の経験から強風の中でも火加減を予想し、絶妙な加減で生地を焼くリーダー由美子さんの気迫を背に受けて、私ともう1人のスタッフ中平は寒さに耐えながら並んでくれているお客さんのために具材を生地に乘せて巻く作業に没頭していました。

おかげさまで、今年のジビエフェスタでは休む暇もないくらいお客さんに恵まれて良い成果を残すことができました。お越しいただいた方々にはこの場をお借りしてお礼申し上げます。

また、今年はジビエ-1グランプリという企画が行われ、各店舗が凌ぎを削った結果、1位は大久保の猪鹿工房さんが獲得されていました。町外からの出店者が多い中で地元の「猪鹿工房おおとよ」さんが1位を飾ったことがとても嬉しかったです。（猪野大）



移住者紹介のコーナー 椿垣内（つばきがいと）さん

ようこそ大豊町へ！ 今回は大阪府出身で立川に入られた椿垣内（つばきがいと）さんをご紹介します！



野雅(のあ)さん 悠太(はるた)くん

もともと自然の中で自給自足の生活をしたという思いがあり、子供が生まれたことをきっかけに、より食に関心が高まり移住を決意したそうです。

発酵食品に興味が出て挑戦していくうちに、水と空気が澄んでいて涼しく、食文化の豊かな嶺北地域が良いと思い一度は本山町に移住したが、より多くの自然に囲まれた大豊町が自分の中で心を引き、立川への移住につながったそうです。

「今まで自分で何でもできると思っていたが、飲み水を引くのすら難しかった。自分にはできないことがまだまだある。そういう生活が楽しい！」と笑顔。

「水を引くのが大変だった分、水のありがたさを感じる。ふと瞬間、自然の中で生か

されている実感と幸せがある。」と3か月生活してみての感想を語ってもらいました。

今後の展望は、家の周りをきれいに開墾して、糸紡ぎの体験や宿をやっていけたらと考えている。子供を育てていて思うのは、小さい時の過ごし方が大事だということ。都会の家族を中心に、いろんな人に来てもらい自然体験をしてもらえるようになりたいということでした。

大豊町の食文化に興味があるので、ぜひ伝統料理などを教えてくださいと言っていました。

大豊町が大好きだという仲間が少しずつ増えていくことがとてもうれしいですね。これからもどんどん紹介していけるよう頑張りたいと思います！（中平）

そばを栽培してみようと始まったイベント「そば物語」～収穫編～



近年、過疎・高齢化により失われつつある大豊町のソバ作り文化。次世代に文化を語り継ぐため、「おおとよガレット」の移動販売事業に取り組んできました。そして、今年初めて私たちの手でソバを栽培してみようと始まったそば物語の収穫編が、11月5日に行われました。

一回目の種まき編が8月20日に行なわれてから約2か月半。当法人のメンバー約10人が、ほとんど初めての体験となる「ソバ刈り」をしました。今回初めて作ったソバは、ほとんどが倒れてしまいとても刈り難く苦労しました。原因は、厚播き過ぎたことが考えられます。



その代わり、ソバの実付きは割合多く、収穫量が期待できそう。収穫したソバは、ハウスの中で乾燥中。脱穀が楽しみです。

お昼は、当法人の理事長が腕を振ったお蕎麦をみんなでペロリ。汗をかけた後のお蕎麦は格別！みんなで美味しく頂きました。

今回収穫したソバは、おおとよガレットやそば打ち教室に使っていきます。まだまだ素人が作るソバですが、私たちが一生懸命に作ったソバです。みなさんにも味わっていただくため、各イベントについてはどんどんお知らせしていきたいと思います！（中平）

27年度 移住相談・移住実績

▼移住相談

～途中経過～（11/30現在）

電話・メール・来町・・・40件
移住相談会・・・23件

▼移住実績

8組13名

▼移住元

高知県内、東京、大阪など

▼移住先地域

目付、黒石、寺内、西川、川口、
立野、立川

<空き家紹介のお願い>

移住希望数に対して、案内できる空き家が不足しています。

大豊町に興味を持たれる方は、現代風の家や生活ではなく、古民家や昔ながらの暮らしを求める方が多くいらっしゃいます。古くても修理が必要でもかまいませんので、（賃貸・売却）可能な空き家情報がありましたら「NPO法人元気おおとよ」移住相談専門員までご連絡ください。

今後ますます、神祭や道役が困難になっていく中で、新しい仲間を受け入れ、ご自身が暮らす集落の維持・存続を目指しましょう。

空き家に関する情報を募集しています。

お気軽にお問い合わせください。

電話 **080-8635-2253**

担当：野田

受付 9:00～20:00

移住ツアー・交流会



＊ ＊ ＊ ＊ ＊

今回のツアー参加者の多くは、関西方面からの若いご夫婦や単身者で、9月に大阪・難波で開催された「中四国フェア移住相談会」の際に相談ブースに来られて、高知または嶺北に興味を持たれ、ツアー参加に至りました。実際に現地に赴き、地元の方や移住者との話を聞く中で、具体的な移住のイメージをつかむことができるのだと思います。

このように、「移住相談会 → 移住ツアー（現地視察）→ 移住を検討・実現」という動きが全国各地で行われており、「NPO法人元気おおとよ」も年に数回、大阪・東京での相談会へ出展し大豊町の移住促進に努めています。また、電話やメールでの移住相談にも対応し、移住希望者が求める暮らしが大豊町でできるか、どうすれば実現できるか、一緒に考えて支援しています。（野田）

<大豊町移住者住宅改修費補助金について>

- ・ 町外からの移住者または空き家の所有者
- ・ 住宅所有者と移住者との間で、定期建物賃貸借契約または売買契約締結されている
- ・ 補助金の交付の対象となるのは、居住部分に係る住宅の改修に要する委託料、工事請負費（設計費、修繕費、改修費）
※自分でやる場合は対象外
- ・ 補助額は1/2以内、上限50万円 ※100万円の工事まで対象

条件等は変更になることがあります、詳しくは移住相談専門員までお問い合わせください。

高知県移住促進課が、今年度6回にわたり、県内の各地域にて「高知県移住体験ツアー」を行っています。その第4弾として「農山村の暮らし～人気の嶺北地域を巡る～」が嶺北にて開催され（10月29日・30日の2日間）、高知県への移住を検討している15名の県外の方々が、仕事・暮らしについて嶺北各所を視察されました。夜には大豊町（みどりの時計台）にて、「さわやか大豊」さんに用意していただいた郷土料理を堪能しながら、先輩移住者の方たちとの情報交換や交流を楽しみました。